

第20回記念広島2人デモ特別チラシ

2012年11月2日(金曜日) 18:00 ~ 19:00

～20回も歩きたくなかった思いを込めて～

写真は大阪原発3・4号機



Copyright (c) 2008 by KEI.

関電 - 黙っていたら "YES" と同じ

危険で違法な

大飯原発再稼働を止めましょう

放射線被曝に安全量はない
世界中の科学者によって一致承認されています。

調査・文責：哲野イサク
チラシ作成：網野沙羅
連絡先：sarah@inaco.co.jp

http://www.inaco.co.jp/
hiroshima_2_demo/



被曝なき仔猫

本日のトピック

1. 関電の無能経営が赤字の真の原因
2. やっぱり出てきた「電気料金値上げ」の脅し
3. 日本の電気料金はアメリカに比べなぜ2倍以上？
4. 今夏「電力不足のウソ」の検証再び…次に騙されないために
5. 危険な大飯原発
6. 国民にさらなる被曝を強制する日本の官僚政府

使用している資料は全て公開資料です。ほとんどがインターネット検索で入手できます。

関電の無能経営が赤字の真の原因

関西電力はこの10月29日、今年度上半期(2012年4月～9月)の決算短信を公表しました。それによると上期1兆4059億円の売上高に対して1168億円の純損失を計上しました。関西電力は原発を十分に稼働できないので火力燃料費が膨れ上がり、そのため赤字決算になった、大飯原発に続く次の原発再稼働をするか、さもなければ電気料金を値上げするしかない」と主張。大手マスコミは大々的に「関電、燃料費高騰で大赤字」と宣伝しています。人件費の削減や仕入れもしていない日本原燃からの電力仕入れを削るだけでこの赤字は大幅に圧縮できますが、より本質的には関電経営陣の無能が招いた赤字だといえることができます。

アメリカは1998年に本格的な電力自由化を実施しました。直後には制度構築の問題があって電力需給に混乱を来したり、一時的に卸価格が投機の対象になりましたが、その後各電気事業者の経営努力で今は安定しています。アメリカの発電設備を見ると最もコストの高い『石油・重油』はすでに全体の5.5%まで落ちています。さらに実際の発電となると『石油・重油』は0.9%とほとんど動かしていません。当たり前です。誰がわざわざ高いコストの発電をしようか？もともとコストの安い『石炭』は、全体の30%の設備能力に対して43%も実際発電をしています。コストの安い発電を行う、これがまともな経営感覚でしょう。

ところが関電はその最もコストの高い『石油・重油』が全体設備の24.5%を占め『石炭』は逆に5.4%にしかなかった。『石炭』は本来石炭に次いでコストの安い資源ですが、これも関電はわざわざ最も高い天然ガス(LNG アジア価格またはアジアプレミアム)を購入しています。原発があるうがなろうが常にコスト削減努力をする、これが経営というものでしょう。関電の赤字は『総括原価方式』に胡座をかいた自らの無能と高慢が招いたものでした。無能で料金値上げをされてはかたがたありません。

参照資料：『関西電力 平成25年3月期第2四半期決算短信 (2012年10月29日)』

アメリカの電力生産実績 2010年

単位：億 Kwh (小数点以下四捨五入)		
発電資源	発電量	比率
石炭	18,473	43.0%
石油・重油	371	0.9%
天然ガス他	9,990	23.3%
原子力	8,070	18.8%
通常水力	2,602	6.1%
揚水	-55	-0.1%
再生可能他	3,473	8.1%
合計	42,924	

* 「天然ガス他」には主として暖房用ガスの余熱による発電を含む
* 「揚水」はすでに発電された電気を使っでの発電となるため、純発電量から見るとマイナス表示となる。
* 「再生可能他」には「風力」「太陽光」「木質・木質派生燃料」「地熱」「その他バイオマス」「他未分類」などを含む。
* 合計には送電ロスなどを含む。2010年の純発電量は4兆1251億kWhだった。
* 出典はアメリカエネルギー情報局(EIA)の「Table E1. Summary Statistics for the United States, 1999 through 2010」
http://www.eia.gov/electricity/annual/html/tablees1.cfm

アメリカの発電設備 2010年

単位：100万 Kwh (小数点以下四捨五入)		
発電資源	発電設備	比率
石炭	342	30.1%
石油・重油	63	5.5%
天然ガス他	470	41.3%
原子力	107	9.4%
通常水力	78	6.9%
揚水	20	1.8%
再生可能他	58	5.1%
合計	1,138	

* 「天然ガス他」には主として暖房用ガスの余熱による発電を含む
* 「再生可能他」には「風力」「太陽光」「木質・木質派生燃料」「地熱」「その他バイオマス」「他未分類」などを含む。
* 「発電設備」の原語は「Nameplate Capacity」で文字通りには認可発電設備。
* 出典はアメリカエネルギー情報局(EIA)の「Table 1.2. Existing Capacity by Energy Source, 2010」
http://www.eia.gov/electricity/annual/pdf/table1.2.pdf

関西電力の発電設備 2012年3月現在

単位：万 Kwh (小数点以下四捨五入)		
発電資源	発電設備	比率
石炭	180	5.4%
石油・重油	818	24.5%
天然ガス他	696	20.9%
原子力	977	29.3%
通常水力	220	6.6%
揚水	442	13.3%
再生可能他	1	0.0%
合計	3,334	

* 新日鐵住金との合弁会社「和歌山共同火力発電所」の30.1万kWを「天然ガス他」に含む
* 「石炭」は舞鶴発電所1号機
* 「天然ガス」には関西エネルギーセンター(都市ガス・灯油)の4万kWを含む
* 出典は同社『平成24年有価証券報告書総覧』他。

ちなみにCO2を排出しない技術が確立されたので、火力発電は環境影響の少ない方法になっています

There is no safe dose of radiation

検証資料

関西電力 ピーク時電力供給量と内訳 (2012年8月2日から8月29日)

単位はすべて万kW 「最高気温」は関電発表のその日の最高気温

2012年									
日付	曜日	最高気温	ピーク時供給実績	ピーク時使用実績	ピーク時刻	電気使用率	ピーク時	ピーク時率	ピーク時
8月29日	水	31.3℃	2,896	2,554	14:00	88.2%	1,378	81.5%	241
8月28日	火	34.6℃	2,970	2,554	14:00	86.0%	1,378	81.5%	243
8月27日	月	34.2℃	2,855	2,554	14:00	89.5%	1,340	79.2%	241
8月26日	日	35.2℃	2,729	2,192	19:00	80.3%	1,168	69.1%	222
8月25日	土	34.7℃	2,662	2,274	14:00	85.4%	1,138	67.3%	232
8月24日	金	32.5℃	3,017	2,505	16:00	83.0%	1,415	83.7%	257
8月23日	木	34.5℃	2,945	2,634	14:00	89.4%	1,334	78.9%	257
8月22日	水	34.7℃	2,986	2,565	15:00	85.9%	1,370	81.0%	258
8月21日	火	34.4℃	2,943	2,549	14:00	86.6%	1,370	81.0%	258
8月20日	月	34.8℃	2,984	2,492	15:00	83.5%	1,332	78.8%	254
8月19日	日	34.4℃	2,695	2,068	19:00	76.7%	1,095	64.8%	236
8月18日	土	34.9℃	2,784	2,326	13:00	83.5%	1,154	68.2%	247
8月17日	金	36.5℃	2,741	2,518	15:00	91.9%	1,212	71.7%	245
8月16日	木	34.0℃	2,635	2,203	16:00	83.6%	1,178	69.7%	234
8月15日	水	32.3℃	2,500	2,004	19:00	80.2%	1,108	65.5%	247
8月14日	火	29.7℃	2,379	1,948	19:00	81.9%	1,123	66.4%	244
8月13日	月	33.0℃	2,455	2,074	19:00	84.5%	1,170	69.2%	243
8月12日	日	34.6℃	2,468	2,066	19:00	83.7%	1,085	64.2%	242
8月11日	土	32.7℃	2,786	2,123	15:00	76.2%	1,116	66.0%	238
8月10日	金	33.8℃	2,890	2,477	14:00	85.7%	1,303	77.1%	252
8月9日	木	34.2℃	2,847	2,434	16:00	85.5%	1,273	75.3%	250
8月8日	水	34.6℃	3,002	2,410	14:00	80.3%	1,415	83.7%	252
8月7日	火	34.4℃	3,026	2,528	14:00	83.5%	1,435	84.9%	256
8月6日	月	36.0℃	3,023	2,625	15:00	86.8%	1,435	84.9%	246
8月5日	日	33.3℃	2,488	2,144	17:00	86.2%	1,078	63.7%	234
8月4日	土	34.8℃	2,759	2,296	14:00	83.2%	1,195	70.7%	248
8月3日	金	36.7℃	2,999	2,681	14:00	89.4%	1,433	84.7%	253
8月2日	木	36.0℃	2,859	2,650	15:00	92.7%	1,375	81.3%	249
ピーク時平均(量/率)			2,797	2,373		84.8%	1,265	74.8%	246
						65.0%	395	89.3%	659
						236	659	510	510
						78.1%	150	89	8
						150	89	8	53

※今夏最大ピーク時供給は、7月26日(気温35.5℃)、16:00に記録された3029万kWでした。

認可最大発電設備能力

火力発電	1,691
水力発電	378
揚水発電	442
原子力	977

電力会社以外の電気事業者

他電力会社 融通電力

他社受電		内非		電力会社		率		融通電力計	
ピーク時	ピーク時率	一定出力	ピーク時率	ピーク時	ピーク時率	中部	北陸	中部	北陸
664	85.5%	236	66.7%	664	76.1%	159	76	76	76
695	84.3%	236	66.1%	695	77.1%	159	76	76	76
680	80.8%	236	63.8%	680	74.7%	172	76	76	76
672	100.2%	236	58.7%	672	72.9%	468	69.6%	204	165
735	72.9%	236	61.4%	735	82.2%	485	66.0%	250	170
697	93.0%	236	68.0%	697	78.9%	550	78.9%	147	76
696	95.7%	236	68.0%	696	78.9%	549	78.9%	147	76
699	95.9%	236	68.3%	699	79.0%	552	79.0%	147	76
688	88.5%	236	67.2%	688	78.6%	541	78.6%	147	76
714	101.4%	236	67.2%	714	77.6%	554	77.6%	160	76
666	101.4%	236	62.4%	666	70.4%	469	70.4%	197	166
739	92.3%	236	65.3%	739	67.4%	498	67.4%	241	170
683	82.4%	236	64.8%	683	81.3%	555	81.3%	128	65
632	80.5%	236	61.9%	632	82.9%	524	82.9%	108	65
558	79.9%	236	65.3%	558	92.7%	517	92.7%	41	10
440	76.2%	236	64.6%	440	93.9%	413	93.9%	27	10
436	83.9%	236	64.3%	436	93.8%	409	93.8%	27	10
473	97.7%	236	64.0%	473	94.3%	446	94.3%	27	10
730	101.4%	236	63.0%	730	67.0%	489	67.0%	241	170
668	97.7%	236	66.7%	668	78.9%	527	78.9%	141	76
664	95.9%	236	66.1%	664	78.6%	522	78.6%	142	76
666	97.7%	236	66.7%	666	78.7%	524	78.7%	142	76
693	91.9%	236	67.7%	693	79.5%	551	79.5%	142	76
659	101.4%	236	65.1%	659	78.5%	517	78.5%	142	76
660	63.6%	236	61.9%	660	69.2%	457	69.2%	203	164
742	76.2%	236	65.6%	742	66.3%	492	66.3%	250	170
719	80.8%	236	66.9%	719	77.7%	559	77.7%	160	76
696	91.0%	236	65.9%	696	79.9%	556	79.9%	140	76

1. 関西電力の「開業」と「新エネルギー」を除くピーク時最大発電能力は、火力、水力、揚水合計2511万kW。(認可発電設備ベース)
2. 他社受電は、IPP(独立発電事業者)、自家発電設備などからの契約による購入あるいは余剰電力の購入及び他電力会社からの融通電力。
3. 関電は「ピーク時供給力」と「ピーク時に発電できる最大電力」のことで、発電設備量とは一致しないことに注意ください。説明しているが、これはおかしな説明。もしこの説明が正しいとするなら、土曜日・日曜日は「ピーク時に発電できる最大電力」が、都合良く下がることになる。また現実には8月9日は、相生発電所2号機(38万kW)、海南発電所2号機(45万kW)、同4号機(65万kW)の御坊発電所1号機(60万kW)の計208万kWは点検でも故障でもないので全く稼働していません。
4. また水力「発電設備量」と「ピーク時供給力」は必ずしも一致しません」として、流域河川の水量が足りないウーを上げています。しかしこの説明もおかしい。流域河川の「出水率」を明示していない上に、過去1ヶ月間の水力発電量は270万kWから230万kW程度にただ下がり下がっている。流域河川の「出水率」が4号機がフル稼働にはいるのと逆比例している。すなわち原発がフル稼働となるにつれ生ずる余剰を水力発電を抑制することで調整していると考えられる。
5. 「電気使用率」はその日ピーク時供給量に対する使用量の比率。もともと供給予約をだして供給量そのものを調整しているのデーターとしては無意味。
6. 興味深い現象は、他社受電が一向に減らないどころかむしろ上がっていることだ。需要の下がる土日になると他社受電が上がり、中でも中部電力が突出して上がっている。これは中部電力との契約で中部電力管内の余剰を関電が引き受ける契約になっていることを意味する。また独立発電事業者との契約は恐らく一定量を引き受けるものとなっていると思われる。
7. 従って関西電力のピーク時最大電力供給能力は、原発を除く自社発電能力2511万kWに他社受電600万kW以上を加え、確実には3111万kW以上と推計できる。
8. 資料出典は関西電力ホームページ「でんき予報」の「過去の使用電力実績ダウンロード」及び「関西電力有価証券報告書 平成23年」

やっぱり出てきた「電気料金値上げ」の脅し

10月末となり今年度各社中間決算の発表時期となりました。予想どおり電力各社『赤字決算』のオンパレードでした。そして、北海道電力、関西電力、四国電力、九州電力と異口同音に「**原発が再稼働できなければ、高騰する火力燃料費が経営を圧迫する。電気料金を値上げせざるをえない**」と主張しています。火力燃料費が各社の決算上膨らんでいるのは事実ですが、これは本当に避けられないことなのでしょうか？

電力会社が『燃料費高騰で赤字』の第一の原因は、いまだに『石油・重油』の依存度が大きいことです。**世界的に見ても日本の電力会社の『石油・重油』への高い依存度は異常**です。アメリカではすでに実際発電に占める『石油・重油』の比率は1%を切りました。数年のうちにゼロになるでしょう。『石油・重油』はすでに**全く発電には適さない資源**になっているのです。現実にも日本でも電力会社以外の電気事業者の火力発電で『石油・重油』を資源としているところはほとんどなくなりました。石油会社の自家発電設備ですら『残渣油』を使っています。主力は石炭・天然ガスです。

大阪瓦斯 2012年度上半期（4月～9月） 増収増益

単位：億円（表示桁以下四捨五入）

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
対前年比	12.6%	137.7%	148.2%	178.6%
2012年上半期	6,299	449	483	309
2011年上半期	5,596	189	195	110

2012年度上半期 売上高と利益の内訳

	都市ガス事業	LPG・電力他	海外エネルギー	環境・他事業	調整額	合計
2012年上半期	売上高 4,713 営業利益 146	990 201	53 12	843 76	-300 13	6,299 449
2011年上半期	売上高 4,182 営業利益 -42	822 127	51 11	861 82	-321 11	5,596 189

資料出典：大阪瓦斯『平成25年3月期 第2四半期決算短信』（2012年10月29日）

日本の電気料金はアメリカに比べなぜ2倍以上？

アメリカは1998年に本格的な電力自由化に踏み切りました。一部大手電力会社の独占の弊害が世論から厳しい批判を浴びたためです。ところが自由化に適合した制度設計が未熟だったため、各地で混乱が起きました。特にカリフォルニア州では、『電力』が投機の対象になったり、あるいは供給事業者が供給責任を放棄したりして電力不足になったり、卸売価格が4倍に上がったりの大混乱が生じました。しかしその後供給者に供給責任を負わせる制度や料金の不正を排除するような仕組みが定着し、全米的にはまだまだ問題が多いものの、2000年代後半からはやっと『自由化』のメリットが出てくるようになりました。また**発電、送電、配電、卸売、小売りと自由に参加できるようにしたため、各地で公平な競争もみられる**ようになり、2011年と2012年には**天然ガスの劇的な価格下落もあって、料金も2010年に比べて下落の傾向**にあります。相対的に原子力発電の操業コストが高くなってきました。このためブッシュ政権、オバマ政権と継続して行われている『原発普及政策』（いわゆる原子カルネッサンス）も不発に終わってしまう雰囲気です。原発はトータルコストが相対的に高くなっているのです。特に福島原発事故以降、一般大衆と事業者**に原発に対する嫌悪感が広がって**いま

す。このため全発電量の20%を越えていた**原発比率は18%近くまで下が**ってきています。この傾向はさらに続くでしょう。興味深いのは、「福島原発事故」前の2010年時点、日本の**原発が高い利用率**だった頃ですら、日本の**電気料金はアメリカの2倍も高かった**という事実です。特に一般家庭向け電気料金は**アメリカの2倍以上**です。「**原発が一番安い発電手段、原発なしでは料金が上がる**」という説明とは矛盾しています。なぜ日本の電気料金はアメリカと比べ2倍以上も高いのか？

日本の10電力会社の電気料金

単位：円 / 1kWh(表示桁以下は四捨五入)

電力会社	一般家庭・小口事業者	企業・大口事業者	他社販売	他電力会社	平均
北海道電力	21.29	14.65	12.77	14.96	16.90
東北電力	21.57	15.01	9.68	19.62	17.35
東京電力	22.27	15.20	15.88	12.33	17.54
中部電力	21.93	14.94	13.39	15.69	16.86
北陸電力	18.70	13.22	15.47	38.97	15.74
関西電力	20.18	13.85	8.79	11.85	15.90
中国電力	20.99	14.13	8.77	19.82	15.01
四国電力	20.51	14.23	-	12.48	15.89
九州電力	19.58	13.65	13.15	44.25	15.74
沖縄電力	24.51	18.82	-	-	21.07

* 出典は各社 2011年度（2012年3月期）有価証券報告書『販売電力量及び料金収入』、『一般家庭・小口事業者』は『電灯』に対応する、『企業・大口事業者』には『特定規模需要』を含む、『他社販売』は電力会社以外の電気事業者への販売、『他電力会社』は他電力会社への『融通電力販売』
* 2011年度の状況。東京電力は2012年9月から『一般家庭・小口事業者』料金を値上げし平均約25円となっている。

Don't restart Ohi reactors

それでは火力発電設備しかもたず、しかも『重油・石油』が主力の**沖縄電力はなぜ赤字ではないのか？それはすでに電力料金が異常に高く設定してあるから**です。（次項「日本の10電力会社の電気料金」を参照のこと）**沖縄の人たちはこれまで突出して高い電気料金を負担させられてきました**。

一方天然ガスコストはなぜこのように高いのか？関電に例を取りましょう。関電の『**ガス燃料費**』は**2010年度ですでに2286億円**で突出して大きい項目でした。**2011年度には4161億円**に膨れあがります。82%のアップです。関電は**天然ガス高騰のため、と説明**しています。ところがこの説明は**辻褄が合わない**のです。もしこれが世界的な現象ならば天然ガスを資源とする火力発電所はみな大赤字でアメリカなら閉鎖に追い込まれます。ところが世界的にはみな天然ガス発電に投資が行われてきました。理由は簡単です。『**天然ガス**』の**価格が劇的に下がっている**からです。アメリカではそのため**ドミニオン社（Dominion Resources, Inc）のウィスコンシン州にあるキウォーニー原発が閉鎖・廃炉に追い込ま**れます。日本でも同様です。2009年に本格的に天然ガスをつかって発電事業に進出した**大阪瓦斯**を例にとりましょう。同社は今年上半期大幅な増収増益を達成しました。**純利益は対前年比78.6%もアップ**しています。本業の都市ガス業も確かに「燃料費調整制度」のおかげで売上げも営業利益もアップしました。しかし**本当は天然ガスを使った電力事業が収益の柱**になっているのです。売上げでは15.7%に過ぎない同社の**発電事業は営業利益では全社の45%も稼いで**います。関電の「天然ガス高騰のため大赤字」の説明は全く辻褄が合いません。本当の説明は、**関電が人工的に作られた異常に高い天然ガス（LNGアジア価格）を仕入れているから**です。**異常な赤字まで作って脅しに使い原発を再稼働させよう**としています。

参照資料：原子力規制委員会『第一回発電用軽水型原子炉の新安全基準に関する検討チーム』（参考資料1）『新たな安全基準策定の進め方』（2012年10月25日）、沖縄電力Webサイト『電力設備詳細』<http://www.okiden.co.jp/corporate/profile/facility.html>、沖縄電力『平成24年有価証券報告書』、ロイター電『Dominion closing nuclear plant due to low natgas prices』（2012年10月22日）

答えは『**電力の独占**』にあります。その独占も日本の電力会社は、**家庭用電気料金では完全に『地域独占』、発電と送配電（送電網と配電網）の独占、販売の独占と二重三重の『独占』に守られています**。しかも**無能で経営努力を怠っていても3%の純利益だけは確保される『総括原価方式』**の下では電力料金が高くない方が不思議というものでしょう。

アメリカの電気小売り価格 1999年～2010年

単位：円 / 1kWh 換算レートは1ドル=80円 表示桁以下は四捨五入

年度	一般家庭	商業	産業	輸送機関	全平均
1999	6.53	5.81	3.54	-	5.31
2000	6.59	5.94	3.71	-	5.45
2001	6.86	6.34	4.04	-	5.83
2002	6.75	6.31	3.90	-	5.76
2003	6.98	6.42	4.09	6.03	5.95
2004	7.16	6.54	4.20	5.74	6.09
2005	7.56	6.94	4.58	6.86	6.51
2006	8.32	7.57	4.93	7.63	7.12
2007	8.52	7.72	5.11	7.76	7.30
2008	9.01	8.29	5.46	8.59	7.79
2009	9.21	8.14	5.45	8.52	7.86
2010	9.23	8.15	5.42	8.45	7.86

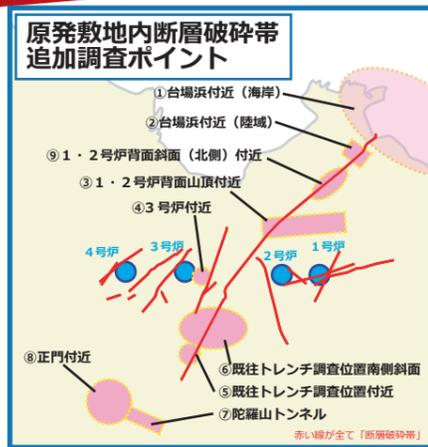
* 出典はアメリカエネルギー情報局（EIA）の「Table 7.4. Average Retail Price of Electricity to Ultimate Customers by End-Use Sector 1999 through 2010」<http://www.eia.gov/electricity/annual/html/table7.4.cfm>

* 1998年の電力自由化以来アメリカでは様々なタイプの電気事業者が派生共存するようになった。発電、電力卸、小売り、配電などまた地域によって価格が違う。この表では「電力業界全体」のデータを掲載している。

今夏「電力不足のウソ」の検証再び…次に騙されないために

今夏、関電、電気事業連合会、野田民主党権、官僚政府、関西広域連合、大手マスコミ総ぐるみの「**原発なしでは電力不足**」のデマ・キャンペーンは驚くほど稚拙なものでした。しかし「嘘も百回言えば…」の例えどおり真実らしく聞こえてくるから不思議です。今その手口をもう一度検証しておくのも無駄ではないでしょう。手口の**第一は、福島原発事故前、電気が無駄に使われていた2010年と比較して2012年の需要予測をしたこと**です。この手を使うと**2011年実績より10%以上も大きい需要予測**が出ます。第二は電力会社を取り巻く**需給環境の激変を無視して電力会社の供給能力を過小評価**したことです。大手事業所の

危険な大飯原発



【参照資料】原子力規制委員会：「関西電力（株）大飯発電所破砕帯追加調査の進捗状況」の2012年10月9日付け「追加調査計画図」及び「原子力規制庁による観察状況」（10月1日～9日）

自家発電設備、独立系電気事業者や電源開発などからの供給力をほとんど計算に入れませんでした。第三は電力会社**自体の発電能力を**実際の設備から大幅に間引きして見積もったことでした。関電に例をとると需要は約300万kW過大に見積もり、供給能力は約400万kWも過小に見積もりました。こうして「**電力不足**」の嘘が作られ、**大飯原発再稼働の口実とされた**のです。関電は大飯原発再稼働を継続したまま、**今冬さらに384万kWも供給を減らすとぬけぬけ**と言います。自ら「**電力不足の嘘**」を認めた格好です。さらに同じ手が今冬北海道電力管内で使われようとしています。

次ページの検証資料「関西電力 ピーク時電力供給と内訳」をご覧ください

大飯原発の危険は通常運転時、事故を起こさなくても危険な放射能を環境に放出してきたこと。10年間で放射性トリチウムを825テラベクレルも放出しました。これは関電3原発が放出した合計1585テラベクレルの半分以上にあたります。さらに1年間でクリプトン85やキセノン133を中心とする放射性物質を希ガスの形で9000億ベクレルも放出し、ヨウ素131を27万ベクレル放出しました。原発地元の人たちは「**全く安全**」と信じ込まされているか、あるいはそのことすら知らない人たちもいます。さらに差し迫った危険は敷地内の断層破砕帯が活断層である可能性が強まったこと。調査を命じられた関電はこの10月末「**活断層ではない**」という『中間報告』（後で逃げるための常套手段です）を原子力規制委員会に提出しました。その規制委員会が11月2日から直接調査を開始します。**再稼働は中止すべきです**。

大飯原発が1年間で放出した希ガス性放射性物質

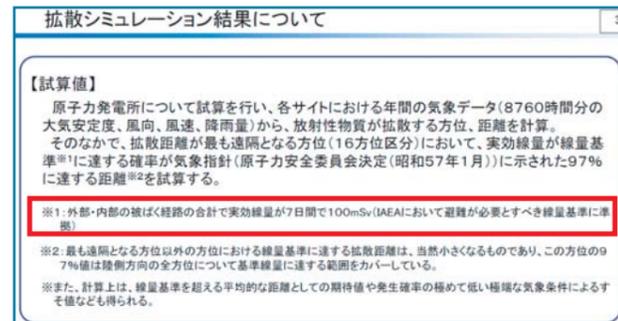
(2010年4月～2011年3月)

	希ガス	ヨウ素131
実績値	9000億 Bq	27万 Bq
管理値	4000兆 Bq	1億1000万 Bq

※希ガスの明示はないが、クリプトン85、キセノン133が主体と考えられる。
※管理値は規制当局が認めた放出上限値。その数字の高さに驚かされる。
※資料出典は「原子力施設運転管理年報」平成23年度版

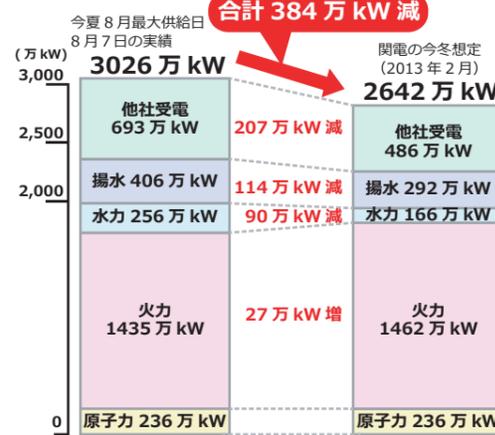
国民にさらなる被曝を強制する日本の官僚政府

原子力規制委員会は10月24日避難計画策定のための苛酷事故時の避難範囲シミュレーションを公表しました。ところがその時の**避難基準は7日間で100ミリシーベルトの被曝**というものでした。チェルノブイリ事故の時は5ミリシーベルト以上が、また**昨年**の福島原発事故の時は**事実上20ミリシーベルトの被曝が避難基準**でした。今回規制委員会はさらに苛酷な避難基準を設定し国民に被曝を強制しようとしています。さらに**文科省、環境省、農林省、厚生労働省、食品安全委員会、消費者庁などの政府官僚は、放射線被曝に安全量や安全な境目があるかのような非科学的なデマを流し、国民に更なる被曝を強制しよう**としています。



資料出典：原子力規制委員会 第7回会議（2012年10月24日）資料「放射線物質の拡散シミュレーションの試算結果について」p 3 http://www.nsr.go.jp/committee/kisei/data/0007_04.pdf

今夏ピーク時最大供給実績と今冬関電供給計画の比較



参照資料：関電ホームページ「でんき予報」の「過去の使用電力実績ダウンロード」及び関電プレスリリースより「今冬の需給見通しについて」平成24年10月12日、「今冬の需給状況について」平成24年3月23日

関電3原発放射性トリチウム（液体）放出量

単位：テラ（兆）ベクレル（Bq）

年	美浜	高浜	大飯
2001	17	53	130
2002	18	63	64
2003	23	59	90
2004	16	63	98
2005	15	69	66
2006	14	68	77
2007	20	60	89
2008	18	40	74
2009	23	43	81
2010	13	65	56
合計	177	583	825

総合計 **1585**テラ（兆）Bq

みんなが食べるものだから、放射線を受けると、どうなるの？

基準値以下の食品は、ずっと食べ続けても安全です。

2012年4月からの新しい基準値は、食べ続けたときに、その食品に含まれる放射性物質から生涯に受ける影響が、十分小さく安全なレベル（年間1ミリシーベルト以下）になるよう定めています。これは、食品の安全基準を定めている国際的な委員会が、これ以上の慎重をとる必要はないとしている指標に基づく、正しい水準です。

放射性セシウムの基準値 1000Bq/kg

資料出典：厚生労働省「食べもの放射性物質のはなし」その1「新しい基準値のはなし」http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryo/shokuhin/househai